はじめに

「渥美半島の昭和を記す会」では、渥美郡出身の皆さまから寄せられた手記をもとに、2022年から『渥美半島の昭和』『渥美半島の戦後』『追想・渥美半島の昭和』の3巻を刊行してきました。

本書の『新旧写真が語る渥美半島の昭和』は、その続編にあたり、田原市に残された昭和期の貴重な古写真と、同一地点で撮影した現在の写真を並べ、解説文とともに風景と暮らしの変遷をたどります。

昭和はまさに激動の時代でした。「戦前」「戦中」「戦後」の3期に大別され、戦後は占領期から高度経済成長期へ、さらにオイルショックを経て安定成長期、バブル期へと移り変わり、やがて平成の「失われた30年」や「少子高齢化」の時代へとつながっていきます。

昭和初期に刊行された『渥美郡勢総覧』および当時の観光絵葉書には、戦前の渥美半島における生活の様子が記録されており、当時の穏やかな暮らしぶりをうかがい知ることもできます。

昭和30年まで農漁業を基盤とする小さな村々が点在していた渥美半島は、渥美郡3町に統合され、高度成長期を迎えました。

昭和40年代からは、豊川用水の完成や農業構造改善事業により農業の近代化が進み、臨海工業用地の造成とトヨタ自動車の進出が地域経済に新たな進展をもたらしました。マイカー時代の到来に伴い道路整備が進み、伊良湖港周辺では観光開発が活発化。その一方、バイパスの開通や大型店の進出、市街地再開発により、かつて賑わいを見せていた商店街や個人商店が次第に姿を消していきました。

現代の写真を撮影する過程で、舗装された道路や区画整備された住宅地、市街地など、時代の変遷とともに大きく姿を変えた地域がある一方で、かつての面影を今に伝える場所も確認できました。

とりわけ田原湾の臨海工業地域の景観の変化からは、「たはらエコ・ガーデンシティ構想」のもと、従来の工場誘致から風力発電・メガソーラー・バイオマス発電といった再生可能エネルギー関連企業の誘致へと舵を切った田原市の新たな方向性が読み取れます。

新旧2枚の写真を通して渥美半島の歴史と文化を見つめ直すことで、未来への手がかりを見出すこともできるのではないかと考えます。

2026年3月

渥美半島の昭和を記す会　藤城　信幸

本書に掲載した写真の撮影地（地理院地図に加筆）

はじめに		1
もくじ		2
年 表		3
蔵王山頂から見た田原市街地の変遷	田原市街地	5
広大な汐川干潟が臨海工業地域に変貌	童浦地区	6
姫島漁港の変遷と現在の姿	白谷町	7
時代とともに変化していった田原湾の開発	田原湾	8
写真と手記に残されていた昭和東南海地震	田原町柳町	10
米軍の偵察写真に記録されていた地震被害	田原町市街地	11
セントファーレの所にあった上町商店街	田原町萱町	12
上町通りの商店街の思い出	田原町萱町	13
市街地再開発で一新したはなとき通り	田原町萱町	14
受け継がれる着物愛	田原町	15
昭和30年代の新町交差点	田原町新町	16
衣笠橋から西へ続く坂道	田原町清谷	18
国道259号と衣笠橋周辺の変遷	田原町清谷	20
巴江神社の鳥居と田原城址の変遷	田原町巴江	21
渡辺崋山の銅像が立つ池ノ原公園	田原町池ノ原	22
伝統を受け継ぐ成章高校4階建て校舎	田原町池ノ原	23
田原中部小学校の講堂と3階建て校舎の記憶	田原町殿町	24
渥美線の開通と延伸計画の経緯	三河田原駅	26
三河田原駅舎の変遷とその時代	三河田原駅	27
三河田原駅と市街地の変遷	三河田原駅	28
田原駅前通りの戦前・戦後の変化を追う	三河田原駅	29
子供たちの遊び場だった清谷川	田原町西大浜	30
写真で比べる田原街道と大坪の60年の変遷	神戸町大坪	31
水田地帯が住宅と商店が建ち並ぶ市街地に	東赤石地区	32
土地区画整備事業で誕生した赤石地区	赤石地区	33
汐川河口にあったセメント工場	豊島町安原崎	34
豊島駅の北にあった東部農村共同経営組合	豊島町奥谷	35
田原東部小学校の校舎の変遷	豊島町西屋敷	36
田原西部小学校の跡地が白谷公民館に	白谷公民館	37
田原西部小学校の思い出 ⑴ ⑵	白谷町	38
海上から眺めた白谷集落の今昔	白谷町	39
伊勢湾台風直後の馬草海岸と野田醤油工場	野田町馬草	41
土砂の崩壊が進む東神戸海岸の海食崖	東神戸町海岸	42
昭和東南海地震が刻んだ本前海岸の地形	南神戸町海岸	43
昭和30年代に存在していた本前の神戸漁港	南神戸町海岸	44
赤羽根中学校屋上から北東を望む	赤羽根町西	45
赤羽根の海食崖上を通っていた旧表浜街道	赤羽根町西	46
赤羽根中村交差点の移り変わり	赤羽根町中村	47
赤羽根中村宮瀬古の旧道沿いにあった商店街	赤羽根町中村	48
斜め写真でたどる高松小学校の校舎の歴史	高松町	49
高松小学校と高松保育園の思い出	高松町	50
高松新井海岸にある貝化石を含む泥層	高松町新井海岸	51
地引網が行われていた砂浜はサーフスポットに	赤羽根町大石海岸	52
サーファーが集まる太平洋ロングビーチ	赤羽根町大石海岸	53
掘り込み漁港として建設された赤羽根漁港	赤羽根漁港	54
赤羽根漁港に停泊する漁船の変遷	赤羽根漁港	55
赤羽根漁港建設で取り壊された吹出橋	赤羽根漁港	56
赤羽根漁港建設の歩みと港湾整備の記録	赤羽根漁港	57
露地花畑が広がっていた若戸小学校の前	若見町	58
若見海岸の地形変化と護岸整備の記録	若見町海岸	59
戦前に築かれた越戸海岸の防波堤	越戸町海岸	60
昭和初期の鉄筋コンクリート造の旧福江町役場	福江町	61
旧福江町役場の屋上から見た免々田川河口	福江町	62
旧渥美町役場の屋上から見た古田の変遷	古田町	63
物流の拠点だった免々田川河口の福江港	福江漁港	64
写真でたどる下地商店街の盛衰	福江町下地	65
福江町高田交差点の商業地の変遷	福江町高田	66
上空から見た伊良湖岬周辺の変遷	伊良湖岬	67
昭和東南海地震の津波の爪痕を確認	伊良湖岬	68
波打ち際に建設された伊良湖岬灯台	伊良湖岬	69
海の玄関口として賑わった伊良湖港	伊良湖港	70
伊良湖海水浴場からココナッツビーチ伊良湖へ	伊良湖町宮下	71
恋路ヶ浜から望む日出の石門	恋路ヶ浜	72
日出－堀切海岸の砂浜の変化	日出－堀切海岸	73
日出の石門の岩礁で行われてきたワカメ採り	日出海岸	74
渥美フラワーセンターから菜の花ガーデンへ	堀切町	75
常光寺と安政東海地震にまつわる記録	堀切町常光寺	76
写真でたどる和地小学校の歴史	和地町北山	77
六階建から見た小中山の風景の変遷	小中山町西山	78
伊良湖岬から北東へと延びる西ノ浜堤防	西ノ浜海岸	79
校舎と運動場が入れ替わった中山小学校	中山町天伯	80
新堀川にあった泉村信用販売購買利用組合	江比間町	81
江比間海岸を訪れていた3機の水上偵察機	江比間海岸	82
おわりに		83

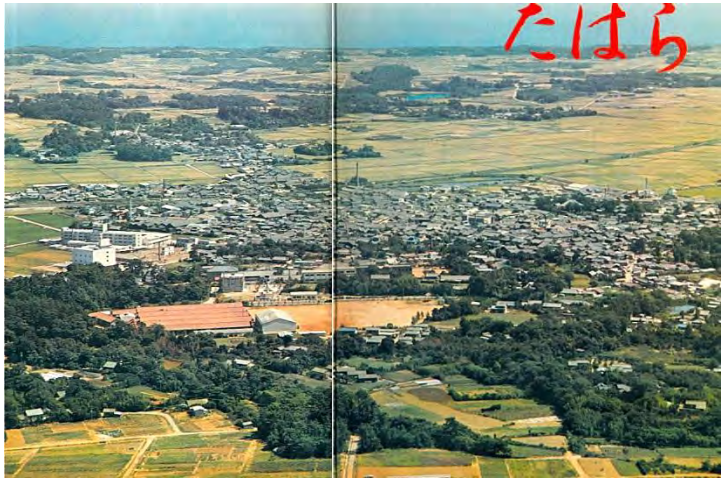
本書に関連する渥美半島のできごと

和暦	西暦	渥美郡と田原市のあゆみ
大正11	1922	柳町ー新町間の田原市街地を貫く県道が開通
13	1924	渥美線が開通し、東大浜に渥美線の田原駅(初代駅舎)が開業
14	1925	セメント工場の空中索道(ケーブル)が完成
昭和元	1926	大正天皇が崩御し、昭和と改元(12月)
2	1927	田原中部小学校の講堂が完成
		渥美線の田原駅ー黒川原駅間が開通
4	1929	越戸の防波堤が完成　　伊良湖岬灯台が点灯
5	1930	石造の巴江神社の鳥居が建立
		鉄筋コンクリート2階建ての福江町役場が完成
		伊良湖射場に六階建(気象塔兼展望台)が完成
9	1934	田原中部小学校の鉄筋コンクリート造の校舎が完成
15	1940	紀元二千六百年の祝賀パレードが行われる
18	1943	大津島を埋め立てて旧海軍大崎飛行場が完成
19	1944	渥美線の三河田原ー黒川原間の運行が休止(6月)
		米軍本土上陸に備え怒部隊が駐屯(9月)
		東南海地震が発生し柳町11軒が倒壊(12月)
20	1945	渥美線銃撃事件・太平洋戦争が終戦(8月)
21	1946	西山地区の開拓が始まる(5月)
23	1948	伊良湖港の建設が始まる(～1964年)
28	1953	赤羽根漁港の建設が始まる(～1993年)
		13号台風が襲来して高潮で大きな被害(9月)
		石門・骨山-恋路ヶ浜・伊良湖港間の観光道路が開通
30	1955	赤羽根集落の北側に新県道が開通(6月)
		福江町・伊良湖岬村・泉村が合併し、渥美町が誕生
33	1958	田原町役場が移転し、新庁舎が完成(5月)
34	1959	伊勢湾台風の暴風雨で大きな被害(9月)
36	1961	渥美フラワーセンターがオープン(2月)
38	1963	県道豊橋・伊良湖岬線が二級国道259号に昇格(4月)
		シロキヤスーパーがオープン(12月)
39	1964	東三河工業整備特別地域に指定
		伊良湖港が完成(3月)
		高潮対策のため西ノ浜海岸の堤防が完成(3月)
		伊良湖ー鳥羽間にフェリーボートが就航(11月)
40	1965	伊良湖海水浴場がオープン(7月)
41	1966	田原漁業協同組合が漁業補償に調印(4月)
		国道259号の全面舗装が完了(8月)
		集中豪雨で大きな被害(10月)
		マイカー時代の幕開け
42	1967	田原地区の臨海工業用地の埋立工事を開始(1月)
		成章高校の4階建て新校舎が完成
43	1968	田原西部と田原北部の2小学校が統合し、童浦小学校が開校
		豊川用水が全面通水(5月)
		伊良湖ビューホテルがオープン(5月)
44	1969	新船倉橋が開通(12月)
45	1970	伊良湖港湾観光センターがオープン(7月)
46	1971	グランドショップアツミレイがオープン(8月)
47	1972	汐川干潟の保存運動が始まる

48	1973	田原地区臨海工業用地に進出した企業が操業開始
		高木ー畠神社間の国道259号バイパスが完成
50	1975	赤羽根町の農家一戸当たりの生産農業所得が全国第1位となる
54	1979	トヨタ自動車工業の田原工場が操業を開始(1月)
56	1981	ショッピングセンターパオがオープン(4月)
		蔵王団地が完成(12月)
57	1982	田原中学校の鉄筋3階建ての新校舎が竣工
		長さ1,750mの三河港大橋が開通(7月)
58	1983	国道259号バイパスの神戸～大久保間が開通(4月)
		渥美町役場の新庁舎が完成(6月)
60	1985	田原赤石土地区画整備事業が始まる(12月)
61	1986	バブル景気が始まる
62	1987	「総合保養地域整備法(リゾート法)」の制定
		トライアスロン伊良湖大会がスタート(9月)
平成元	1989	渥美線の神戸駅が新設(7月)
		伊良湖ガーデンホテルがオープン(7月)
2	1990	田原福祉センターが竣工(5月)
3	1991	免々田川樋門が完成
4	1992	赤石・東赤石の新市街地が誕生
5	1993	田原市博物館が開館(4月)
		「田原めっくんはうす」が道の駅に認定(4月)
		県道伊良湖岬・白須賀線が国道42号に昇格(4月)
		赤羽根漁港が完成
6	1994	わかしゃち国体が開催(10月)
		三河田原駅の新駅舎(3代目)が完成(10月)

		道の駅「伊良湖クリスタルポルト」がオープン
		田原赤石土地区画整備事業が完工(11月)
14	2002	小野田セメントが田原での操業を停止
15	2003	伊勢湾海上交通センターが運用開始(7月)
		田原町が赤羽根町を編入し、田原市が誕生(8月)
16	2004	中心市街地再開発により「はなとき通り」が誕生
		複合商業施設「セントファーレ田原」が開業(7月)
17	2005	伊良湖フラワーパークが閉園(3月)
		渥美町を編入し、現在の田原市が成立(9月)
18	2006	赤羽根市民館が竣工(3月)
19	2007	国道259号バイパスの建設が完成(3月)
		田原市の人口が65,695人をピークに減少に転じる
21	2009	道の駅「あかばねロコステーション」が開業(3月)
25	2013	現在の三河田原駅の駅舎(4代目)が完成(10月)
28	2016	和地・堀切・伊良湖の3小学校が統合し、伊良湖岬小学校が開校
		田原市役所の6階建て新庁舎が完成
令和元	2019	複合交流施設「ララグラン」がグランドオープン
2	2020	田原鉱山が閉山
4	2022	若戸・赤羽根・高松の3保育園が統合し、あかばねこども園が誕生
		伊良湖ビューホテルが伊良湖オーシャンリゾートに
7	2025	「あつみの市レイ」がオープン(2月)
		田原4区で3つのバイオマス発電所が稼働を開始

蔵王山頂から見た田原市街地の変遷



蔵王山頂からの田原市街地 （1969年『田原町勢要覧』より）

蔵王山頂からの田原市街地 （2025年・藤城信幸撮影）

上の写真は、昭和40年（1965）代初めに標高250mの蔵王山頂から撮影された田原市街地の様子である。

手前の蔵王山麓には畑と森が広がり、赤瓦の校舎と運動場は田原中学校である。左端に見える2棟の白いビルは田原電報電話局と渥美病院であり、市街地は黒い瓦屋根の家々で埋め尽くされている。煙突は原野・伊藤・松井などの製菓・製飴工場のものである。

昭和40年以前の渥美郡は、サツマイモの一大産地であり、各地区にはサツマイモの澱粉工場があった。そこで製造された澱粉は製飴工場に運ばれ、水飴の原料として使われた。

市街地の南には水田が広がり、汐川が流れている。奥には畑と森が混在する神戸地区の台地、その先には太平洋が広がっている。

昭和43年に豊川用水が全面通水、臨海部の埋立造成工事も始まり、昭和54年にはトヨタ自動車田原工場が操業を開始した。昭和43年当時、田原町の人口は26,000人で減少傾向にあったが、昭和45年からは増加に転じ、平成6年には36,000人を超えた。臨海部への工場進出が田原町の発展を促す要因となった。

下の写真は、田原・赤羽根・渥美の3町合併後の現在の田原市街地の様子である。蔵王山麓には蔵王団地が造成され、田原中学校の運動場には鉄筋3階建ての新校舎と体育館が建てられている。田原城址には田原市博物館ができ、右隅には成章高校の校舎や6階建ての田原市役所の新庁舎が写っている。

半世紀余りの間に市街地は南の赤石地区から汐川対岸の東赤石地区まで拡大した。渥美病院が移設されアパートも建設された。

広大な汐川干潟が臨海工業地域に変貌

1979年の童浦地区とトヨタ自動車田原工場 （藤城信幸撮影）

蔵王山頂から見た童浦地区と臨海工業地区（2023年・藤城撮影）

上の写真は、昭和54年（1979）に蔵王山頂から北東の童浦地区を撮影したもの。中央左に見える小山は標高79mの笠山で、その先には三河湾、右手には汐川干潟が広がっている。

昭和39年、蒲郡・豊橋・田原の臨海部が「東三河工業整備特別地域」に指定。昭和41年に田原漁協との漁業補償が妥結し、翌42年から田原地区の臨海工業用地の埋め立てが始まった。

昭和48年から進出企業の操業が始まり、昭和54年にはトヨタ自動車田原工場が操業を開始した。笠山の向こうに白く広がる建物が、完成したばかりの田原工場である。田原工場は輸出用車両の生産拠点として計画され、工場横の岸壁に接岸した運搬船に完成車両を積み込む輸出基地として整備されていく。左手に見えるアパート群は、トヨタ従業員の社宅として建設されたものである。

造成前の童浦地区の地先には、約2,000haに及ぶ広大な汐川干潟が広がっていた。ノリやアサリの豊かな漁場として地元住民の生活を支えていたほか、全国有数の渡り鳥の渡来地でもあり、130種類以上の野鳥が確認されていた。全面埋め立てに反対する運動が起こり、汐川河口周辺の280haが保存されることとなった。

下の写真の田原工場は、東京ドーム約86個分に相当する403haの敷地に増設され、現在ではレクサスやランドクルーザーなどが生産されている。工場の岸壁には2隻の自動車運搬船が確認できる。

写真には11基の風力発電用プロペラと黒色のメガソーラーパネルも写っており、田原市は近年、国内最大級の再生可能エネルギー推進地区としても注目を集めている。